

㊤層には、15cm厚さの頁岩層がはさまれます。

## 2. 川原のようすと流水のはたらき

(1) 調べる場所

6号国道から100m下流の熊川。

(2) 土手の上から、川原や、水の流れている様子を観察し、全体のスケッチをする。

① スケッチの中に、川幅や川原の大きさなどを書き入れる。

② 水の流れが曲がっている付近で、川岸やつもっている川原がけずられているのは、内側か外側か、注意して観察する。

(3) 川原において川原の様子や、水の流れを調べる。

① 水の流れが曲がっている付近で内側と外側とで、どちらの流れが速いか、調べる。

② 川床の深さは、どのように変っているだろうか。

③ 水中のぞき箱で、川底をのぞき、砂が流されている様子を観察する。

④ このことから、川原につもっているレキは、どのようなとき、どこから運ばれてきて、つもったのだろうか。

(4) 川原のレキを調べる。

川原のレキや、砂のつもり方、集まり方が平均的である場所を選び、1m四方の方形枠でその場を囲う。

① レキの大きさに分ける。

方形枠の中に入っている長径5

cm以上のレキ(表面に出ているレキ)の全てをビニルシートに取り出し、大きさによって5~10cm, 10~15cm, 15~20cm, 20~25cm, 25cm以上に分け、その数を調べる。

② レキの形で分ける。

